



K130.721

2.2

5.6乙上

第二種

尋常小學書方手本

第五六學年用乙上乙種

文部省

日出ヅル處ノ天
子書ヲ日没スル

第三卷之上
第百七十一

處ノ天子ニ致ス。
恙無キカ。

神社佛閣拜殿。

三

第三卷之上乙

五重塔手水鉢。

四

第三卷之上乙

人はいさゝかも知らずふる里は

花ぞ昔の香ににほひける。

五

第三巻 七上

第一巻 七上

来て見ればさても櫻のみねつぎ

吉野初瀬の花の中やど。

六

御手紙拜見仕候来る二十日講話會
に御招き下され有り難く存じ候專
門家の講話を承る好機會と存じ候

第七

第三卷之上乙

へども當日はやむを得ざる用事こ
れ有り残念ながら參上致し難く作
右取りあへず御返事申し上候敬具

八

我が聯合艦隊が克ク勝ヲ制シテ前記ノ如キ
奇績ヲ收メ得タルモノハ一ニ天皇陛下ノ御稜
威ノ致ス所ニシテ固ヨリ人爲ノ能クスベキ
ニアラズ。殊ニ我が軍ノ損失死傷ノ僅少ナリ

九

第二卷之七

第三卷之七

シハ歴代神靈ノ加護ニ依ルモノト信仰ス
ルノ外ナク嚮ニ敵ニ對シ勇進敢戰シタ
ル麾下將卒モ皆此ノ成果ヲ見タルニ及ンデ
唯々感激ノ極言フ所ヲ知ラザルモノノ如シ。

十

手數都合取扱。

十一

第一頁上乙

保存交換輕便。

十二

第二頁上乙

吹く風をなこそその鬘と思へども
路もせにちる山極かな。

年を経し絲のみだれの若しさに
衣のたてはほころびにけり。

頭。胸。腹。心。臟。肺。

十五

第一書 卷之上乙

腸。胃。筋。肉。關。節。

十六

第一書 卷之上乙

動物體色周圍。

十七

第二卷 乙上乙

保護警戒武器。

十八

裾野。縱。檜。頂。上。

噴。火。口。銀。明。水。

燈 臺 本 暗 シ。
長者ノ萬燈ヨリモ貧女ノ一燈。

旅ハ道 連 世ハ情。
思フ念力岩ヲモ通ス。

濱邊沖合地引網。

鰻魚鯉魚鱸魚鯛魚蟹。

いづこの町も村も老若男女ひたすらに
大君を思ひ奉る赤心より祈らぬ神佛も
無く立てぬ願も言しまして二重橋外の廣

場には土にひれふし砂にぬかづきて夜とな
く晝となく祈り奉るもの幾千といふ数
を知らずゆしき有様たとへんに物言し。

拜啓老父事本年は八十八歳に相成り候
につき来る九月二日の誕生日に御心安
き方々御招待いたし心ばかりの祝意

を表し度と存じ候間同日正午までに
御出で下されはば大幸の至に存じ
先は御案内まで此の如くに御座候

梁棟桁床敷居。

二十九

第一編 乙上乙

鴨居唐紙障子。

三十

第二編 乙上乙

耕地整理。養蠶。養雞。

著實熱心。去華就實。

本殿の横手に一段ばかりの平地あり。
ここは我が村の公園ともいふべく御祭
の日宮角力の行はるゝも此處なり村

芝居のもよほさるゝも此處なり。豊
年の喜に人心の勇み立つ秋の空宮太
鼓のひびきは我等の胸ををどらしむ。

K130.721-22
-5625

大大大大
正正正正
五五五五
年年年年
四三三三
月月月月



廿十七
十八八七
日日日日
翻翻翻翻
刻刻刻刻
發發發發
行行行行

著作權所有

發賣所

東京市日本橋區新地十六番地
株式會社

大正五年三月廿九日
文部省檢査濟

第三種尋常小學書キ方手本
第五六學年用乙上乙種

定價金參錢

著者 玉木 省郎
作 者 木 本 三郎
行 者 東京市小石川區指ヶ谷町百三十六番地
發 者 東京市日本橋區通一丁目十九番地
翻 者 東京市日本橋區通一丁目十九番地
行 者 東京市日本橋區通一丁目十九番地
代 者 東京市日本橋區通一丁目十九番地
表 者 東京市日本橋區通一丁目十九番地
者 東京市日本橋區通一丁目十九番地
印 者 東京市日本橋區通一丁目十九番地
刷 者 東京市日本橋區通一丁目十九番地
所 東京市日本橋區通一丁目十九番地

國定教科書共同販賣所

